

感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

2023年第38週 (9月18~24日)

(国立感染症研究所感染症疫学センター)

●全数報告の感染症 (1~5類感染症)

(今週の報告数/累積。累積は2023年第1週から)

疾患名	報告数	累積
[1類]		
(報告なし)		
[2類]		
結核	202	10201
[3類]		
コレラ		2
細菌性赤痢		27
腸管出血性大腸菌感染症	67	2731
腸チフス		30
パラチフス		7
[4類]		
E型肝炎	5	409
A型肝炎		37
エキノコックス症		11
エムボックス ¹⁾	2	197
オウム病		7
回帰熱		18
コクシジオイデス症		1
重症熱性血小板減少症候群	1	113
チクングニア熱		2
つつが虫病	1	115
デング熱	3	100
日本紅斑熱	17	324
日本脳炎	2	2
ブルセラ症		1
マラリア		19
ライム病		23
レジオネラ症	56	1610
レプトスピラ症	3	26
[5類]		
アメーバ赤痢	4	371
ウイルス性肝炎 ²⁾	2	181
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ³⁾	36	1444
急性弛緩性麻痺 ⁴⁾		43
急性脳炎 ⁵⁾	5	397
クリプトスポリジウム症		8
クロイツフェルト・ヤコブ病	2	116
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	10	604
後天性免疫不全症候群	6	681
ジアルジア症		32
侵襲性インフルエンザ菌感染症	7	409
侵襲性髄膜炎菌感染症	1	12
侵襲性肺炎球菌感染症	10	1277
水痘 (入院例に限る)	3	270
梅毒	163	10957
播種性クリプトコックス症	2	124
破傷風		75
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		90
百日咳	8	677
風しん	1	11
麻疹		25
薬剤耐性アシネトバクター感染症		11

1) 2023年5月26日よりサル痘から感染症法上の名称が変更。2) E型肝炎およびA型肝炎を除く。3) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症から感染症法上の名称が変更。4) 急性灰白髄炎を除く。5) ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

●定点把握の5類感染症

(「定点当たり」は報告数/定点医療機関数)

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ ⁶⁾	35021	7.09
新型コロナウイルス感染症	54346	11.01
RSウイルス感染症	736	0.23
咽頭結膜熱	4126	1.31
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4265	1.36
感染性胃腸炎	7891	2.51
水痘	240	0.08
手足口病	4149	1.32
伝染性紅斑	57	0.02
突発性発しん	635	0.20
ヘルパンギーナ	1749	0.56
流行性耳下腺炎	153	0.05
急性出血性結膜炎	8	0.01
流行性角結膜炎	470	0.68
細菌性髄膜炎 ⁷⁾	8	0.02
無菌性髄膜炎	10	0.02
マイコプラズマ肺炎	20	0.04
インフルエンザ (入院患者)	226	—

6) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く。7) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

●定点把握の対象となる5類感染症

(前週からの定点当たりの増減と多い地域)

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	▲	沖縄、千葉、愛媛
新型コロナウイルス感染症	▼	愛知、岐阜、茨城
RSウイルス感染症	▼	山形、福島、高知
咽頭結膜熱	▼	福岡、沖縄、大阪
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▼	鳥取、奈良、福岡
感染性胃腸炎	▼	大分、香川、熊本
手足口病	▼	佐賀、福島、新潟
伝染性紅斑	▲	熊本、鳥取、石川、静岡
ヘルパンギーナ	▼	山形、福岡、佐賀
流行性耳下腺炎	▲	山口、大分、沖縄
マイコプラズマ肺炎	▲	岐阜、静岡、茨城、石川

◆ボツリヌス症 (フランス)

9月14日、フランスの国際保健規則 (IHR) に基づく連絡窓口は、ボルドーとイル・ド・フランスで報告されたボツリヌス症疑い症例15例 (うち死亡1例) をWHOに通知した。疫学調査の結果、感染源は、9月4~10日にボルドーのレストランで、レストラン自家製イワシの保存食を食べたことであると判明した。